インタビューデータの本文の見方

インタビューデータを文字化する際に使用した記号は、以下の「凡例」のとおりです。

文字化にあたっては、発話に忠実に書き起こすことを基本としました。

ただし、間の長さや発話の重なりを厳密に記述することはしていません。これは、扱うデータがインタビューデータであり、複数の参与者の会話を分析する会話分析とは性質が異なるためです。

凡例

記号	内容
I	インタビュアー
C	調査協力者
F	フォローアップインタビュー。すべての問題を終えた後に、インタビュアーがとくに確認しておきたい点を追加でインタビューしたもの。 問題番号「5」はメインのインタビューを、「5F」はフォローアップインタビューを指す
[ ]	注釈 ①発話者の特記すべき行動がある場合、[ ]でくくって示す（口で説明する代わりに実演するなど） ②発話内容を理解するために、翻訳者が付け加えた翻訳上必要な情報を[ ]でくくって示す ③母語での発話内容が不明瞭である場合、そのまま日本語に翻訳したうえで、その後ろに[母語での発話内容が不明瞭]と示す
……	言い淀み、言いさし
「」	日本語学習者が日本語で発話した部分を「 」でくくる （例）中国語発話：后面说どこにけいさいされた。 日本語訳：後ろは「どこに掲載された」と言っています。